

2024年2月27日
国際フォーラム資料

横浜市における 外国籍等児童生徒の現状と取組



横浜市立横浜吉田中学校
副校長 土屋 隆史

横浜市について

全人口

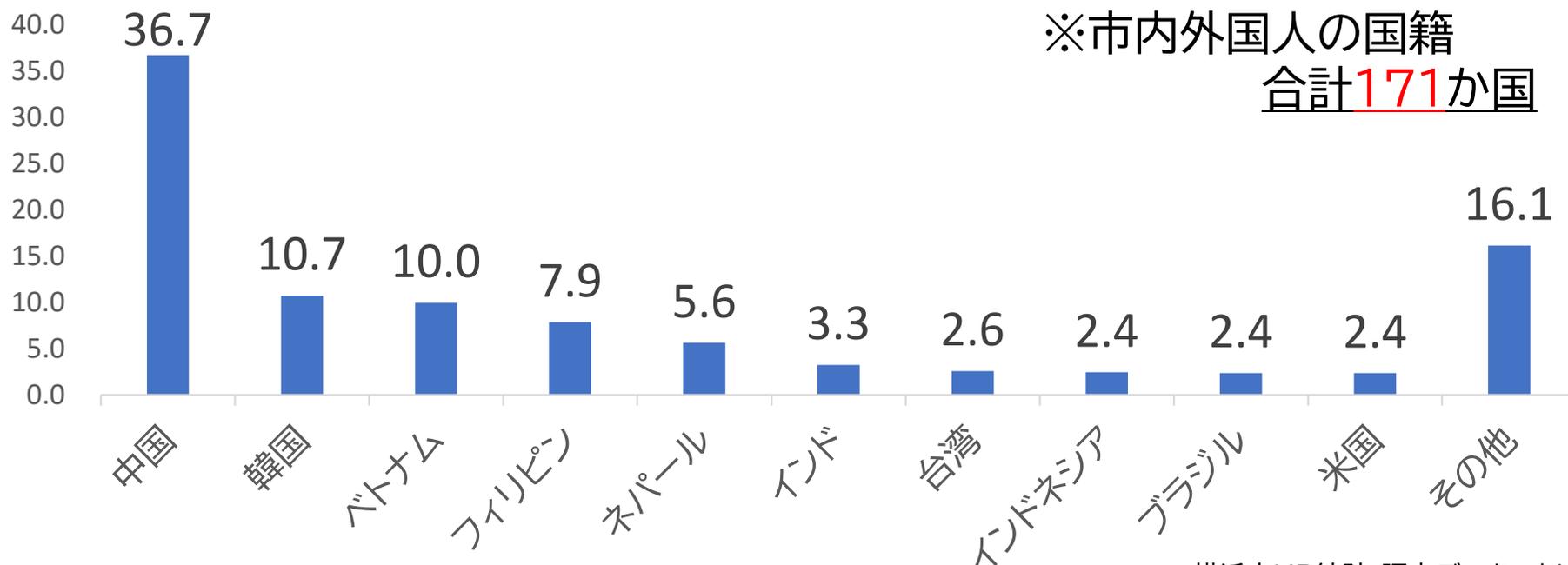
376万9220人(R6.1.1現在)

外国人の人口(R5.12.31時点)

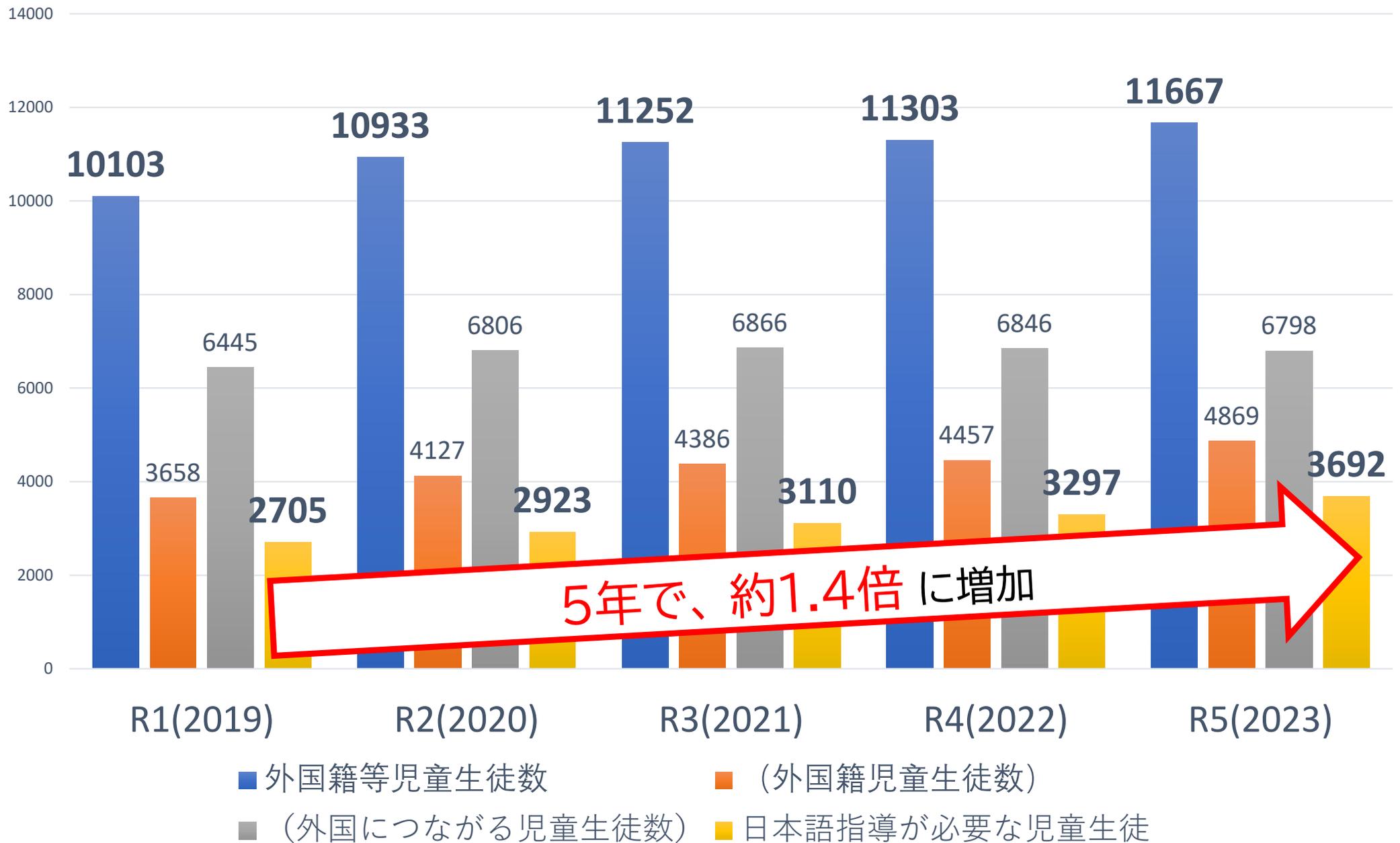
11万5973人(全人口の3%)

※中区の外国人
区人口の11.3%

外国人の人口(国別%)



横浜市における外国籍等児童生徒数



学校内での支援(授業時間内)

国際教室

- 日本語指導が必要な児童生徒への指導を担当する教員を配置。日本語指導、教科指導、生活適応指導等を行う。(H4~)
- R5年度は、小中学校合わせて「214校」に配置。

横浜市日本語教室

- 日本語の初期指導が必要な児童生徒に対して、日本語指導資格を持った講師が指導。(S56~)
- ≪小学生≫ 日本語講師を各小学校へ派遣指導
- ≪中学生≫ 市内5か所の集中教室で通級指導
- R4年度は、児童生徒「612名」が新たに入級。

その他の学習支援とキャリア支援

「母語による初期適応・学習支援」等

- 対象となる日本語指導が必要な児童生徒に対し、母語のできるボランティアによる「初期適応支援(H20～)」・「学習支援(H18～)」・「補習等の学習支援(R2～)」を行う。

日本語教室面接練習会

- 「日本語教室」で指導を受けている、またはかつて指導を受けた中学3年生を対象に、指導主事が面接官役となり、高校入試を想定した面接練習会を、実施。
- 例年、200名前後の生徒、50名程度の指導主事が参加。

日本語支援拠点施設「ひまわり」(H29～) ※市内3か所

プレクラス

- 外国から新たに転・編入学してきた児童生徒を対象に、1か月間、週3日(水木金)の集中的な日本語指導及び学校生活の体験を行う。(※月火は在籍校に登校)

学校ガイダンス

- 外国から新たに転・編入学してきた児童生徒及びその保護者を対象に、英語・中国語・タガログ語・スペイン語・ポルトガル語・やさしい日本語による日本の学校生活等の紹介および児童生徒の学習状況確認を行う。

就学前教室「さくら教室」

- 日本語支援が必要な新小学1年生及びその保護者を対象に、小学校の体験と学校生活の紹介を行う。(3月第1・2土曜日に実施)

横浜市立横浜吉田中学校の状況

概要

◆学校教育目標

「学びを通して **共生 共感 創造** を育みます」

◆外国籍および外国につながる生徒数 212名(全校生徒の **49%**)

※全校生徒数 432名 (R5.1.9時点)

【国別】 ① 中国・台湾 **34%** (145名)

② フィリピン **9%** (32名)

日本語指導が必要な生徒数 **90名**

多文化共生プログラム

多文化共生教育を進め、異文化や他者への理解を深める学校教育活動の一環

<1年生> 「国際理解」「無意識の偏見」「食」「遊び」をテーマに、年4回、多文化理解のための授業を実施。講師は指導主事や外国人保護者などが務める。

<2年生> 「DST(デジタルストーリーテリング)」を用い、自己表現活動を行う外国籍等生徒が表現した自らの思いを受け止め共有するとともに、自分自身を振り返る。

- ① 「ゼロ」からではなく
「マイナス」からのスタート
- ② 「初期日本語指導」が終了すれば、
授業内容や教科書が理解できるか？
- ③ 安定した生活があつてこそその学習意欲